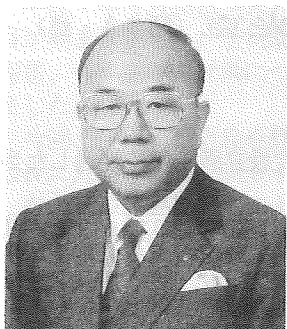


## 建設不動産部会報

第19号

新しい競争時代を  
迎えた建設産業

新部会長

(株)日経コンサルタント

代表取締役

丸山 藤夫 (昭34商)

このたび図らずも庄司初代部会長の後を引き継ぐことになりましたので、よろしくお引き立てのほどお願いします。庄司先輩は人格的にも優れ、建設不動産部会の設置以来満10年間もの永い期間に亘って部会のリーダーを勤めてこられた名部会長でありました。

したがって私のような者が果たして二代目として十分役割を果たせるかどうか不安もありますが、幸い当部会は4人の副部会長をはじめ20人の有力なスタッフによって組織的に運営されておりますので、部会員の皆さんのご協力も得ながら、大役を果たしてまいりたいと思います。

さて、建設産業界は構造不況から立ち直るチャンスを見い出せなく、部会員各位もいろいろとご苦労されておられることと存じます。省みますと、建設産業界は①昭和49年から52年にかけての「オイルショック不況」、②同56年から59年までの「建設業冬の時代」、③そして平成3年からはじまった「平成不況」と、この21年の間に13年間もの多くの年月を不景気の中に曝け出されてきたこととなります。特に今回の平成不況はつぎの諸点で過去の不況と大きく異なります。

- (1) バブル崩壊による資産減少
- (2) 円高株安による産業の空洞化
- (3) ゼネコン汚職等による信用失墜

したがって、昭和50年代における台風型の一過性の不況と異なり、平成不況は直下地震型の、足元から崩れてしまった構造的な不況であり、なかなか立ち直れない現状であります。

しかしどうしても、この現状を打開し、建設産業を21世紀に向けて明るい展望を開かなければなりません。そこで、建設省は建設産業政策委員会の諮問をうけて「1995年建設産業政策大綱」をこの4月に発表しました。この大綱は1991年から2000年までの建設投資を740兆円、さらに2001年から2010年までの投資額を1,040兆円と予測し、総じて堅調な建設需要が期待され、今は苦しいが、中長期的には他産業に比べて明るい将来が開かれていることを示している。それだけに他産業(海外からの参入も含めて)からの新しい競争が展開されるとの前提に立って策定されています。

つぎに同政策大綱のあらましについて、そのポイントのみを述べますと、これからの建設産業に求められる条件として、「不良不適格者の徹底排除」など8つの基本方向と、「エンドユーザーにトータルコストで良いものを安く提供する」ことなど3つの目標方針が示されています。

これらの政策をふまえて、建設産業界が建設活動を通じて社会に貢献するためには、行政側が、ひきつづき「構造改善戦略プログラム」を策定し、各業界団体は業種ごとのビジョンづくりを行い、さらに各企業においてはそれぞれ中長期の経営計画を策定し推進することによって、建設産業界は現在の閉塞状態を打開し、明るい展望を開くことができるものと信じております。

## 部会長を引き継ぎして —— 御礼のひとつこと

相談役  
庄司 光克(昭30・商)

去る六月末、四十年余の勤めに終止符を打ったのを機に、丁度設立満十年を経過した当部会の、部会長を退かさせていただきました。

長い間、公私ともに皆様のひとかたならぬご芳情を賜りまして、誠に有り難く厚く御礼申し上げますとともに、元気でこの時を迎えることができましたことを、無上の幸せとその慶びをかみしめております。

特に役員の方々には、無理を承知で長い間貴重な時間と労力、そして個性豊かな発想のアイデアなど、心をひとつにして惜しみなく供していただいたことの数々が想いおこされ、これが今日(こんにち)の部会を盛りたてるに至った原動力であったと、今更ながら同窓の絆の強さに感慨あらたなるものがあります。

今後の当部会、ひとつの節目を乗り越えた更なる第一年目としての意識のもと、丸山新部会長を擁して、一層の発展を期待熱望し祈念しております。

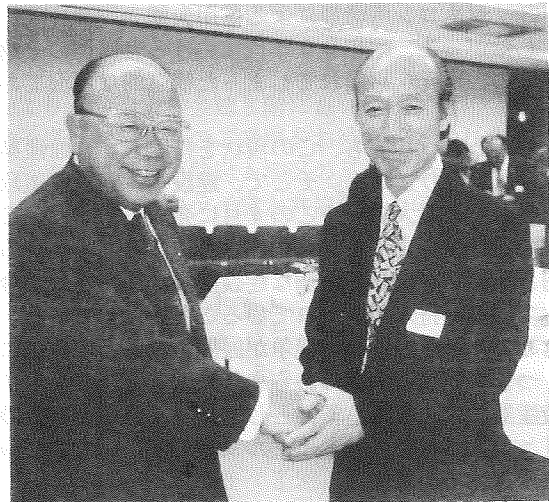
明治大学を根幹として各種OBの団体が大小数多くありますが、夫々が自己の立場利害に走ったりして競合するようなことは避け、各々の趣旨目的に沿ってその特殊性を十分活かし、互いにその存在を尊重し合って共栄を計ってこそ、明治の本領であろうと信じております。

将来の部会の存立発展も、昭和会という組織を基盤としてこれにどう取り組むかが重要な課題であると考えますし、皆様のご理解あるご支援如何が、当部会の伸展を左右する最大のキーであろうかと存じます。

結びに、部会皆々様の益々の御隆盛を祈念し、退任の言葉に代えさせていただきます。長い間、本当にありがとうございました。



退任の挨拶をする庄司さん



がちり握手する新・旧部会長

## 総 会

平成7年5月23日(火)、第10回総会が大学会館8階で行われ、当日は40名の部会員が集まりました。庄司部会長の開会の辞に始まり、兼松企画部長による平成6年度活動報告、今年度の動計画についてのと、規約改正の審議について滞りなく議事が進められました。

今回、長らく部会長を勤められました庄司氏が部会長を退任され、相談役に就任、新部会長に丸山藤夫氏(昭34・商)が選任されました。

丸山氏の部会長選任により、空席となった副部会長に兼松氏(企画部長兼任)が選任され、副部会長は従来と同じ4人となりました。

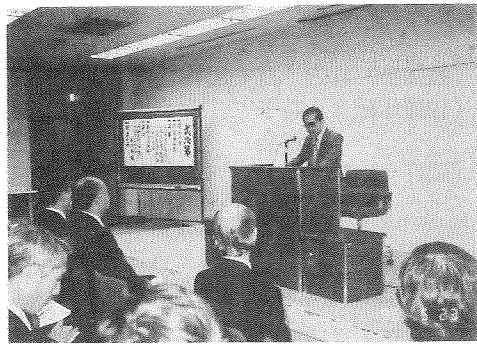
また、事務局には、新たに川原昌洋氏(平5・政経)が選ばれました。

当部会の顧問である法学部の玉田弘毅教授に「阪神大震災に思う」と題して、講演していただき、区分所有マンションの問題点についてお話を伺いました。

第2部懇親会では、新部会員になられた方を始め打ち解けて話しがはずみました。宴もたけなわ、明大校歌を斉唱した後、お開きとなりました。



丸山新部会長



講演中の玉田教授

### 規約改正

(役員構成)

第7条 本会は、総会で選出された役員によって役員会を構成し活動に当たる。

- |          |     |                                 |     |
|----------|-----|---------------------------------|-----|
| (1) 相談役  | 若干名 | (5) 担当役員                        | 若干名 |
| (2) 部会長  | 1名  | (6) 担当顧問                        | 若干名 |
| (3) 副部会長 | 若干名 | (7) 前項の1.2.3.4.5.の各役員の人気は2年とする。 |     |
| (4) 事務局長 | 1名  |                                 |     |

※ (1) 相談役 若干名が追加になりました。

### 新役員

相談役	庄司 光克(昭30・商)
部会長	丸山 藤夫(昭34・商)
副部会長	兼松 紘一郎(企画部長兼任・昭37・工)
事務局	川原 昌洋(平5・政経)

平成6年度決算報告

収入の部		支出の部	
(1)5年度会費	4,000	(1)通信費(研・ハガキ・郵送費)	320,970
(2)6年度会費	548,000	(2)印刷費(名簿・案内状・掛簡・部会報)	358,700
(3)7年度会費	100,000	(3)会場費(総会・勉強会)	51,625
(4)総会会費	129,000	(4)パーティ費(総会・納涼・新木場・新年会)	1,664,802
(5)勉強会会費	147,000	(5)講師等謝礼	144,600
(6)パーティ関係会費	1,381,000	(6)年会費振替手数料	7,740
(7)雑収入	10,067	(7)勉強会ジュース代	5,500
(8)前期繰越金	408,697	(8)雑費(写真代・記念品代・鑑定手数料他)	72,096
		(9)次期繰越金	101,731
計	2,727,764	計	2,727,764

※別途に賀詞交換会等でのオークション売上代金 108,479円があります。

平成6年度活動報告

(懇親会) 納涼パーティー	8月27日	東京湾クルーズ
賀詞交歓会	7年1月20日	田町・牡丹にて
(勉強会) 竹内 貞夫氏	4月6日	「細川政権の行方」
(10周年記念) 益子	7月3日	「作陶及びバーベキュー大会」益子・後藤邸
研修会	10月29日	「東京新名所 新木場めぐり」
(同好会) 第1回ゴルフコンパ	10月20日	サミットゴルフクラブ
第1回釣り会	11月26日	内房 富浦港(酒井丸)

平成7年度活動予定

平成6年4月19日(水)	シンポジウム「兵庫南部地震を考える」	廻町・久保工務店
5月23日(火)	第10回 総会	明治大学会館
6月3日(土)	第2回 釣り会	鎌倉・小坪漁港
7月11日(火)	勉強会「限界村山政権?(テロ経済の恐怖)」竹内貞氏	廻町・久保工務店
8月26日(土)	納涼パーティー	青山・テトロソノガリ
秋	勉強会・見学会	
10月28日(土)	明大昭和会第24回総会	明治大学会館
11月18日(土)	第2回ゴルフコンパ	川越・グリーンクロス
平成7年1月	新年賀詞交歓会	
春	勉強会	



乾杯



校歌

## “兵庫南部地震（阪神大震災）を考える”

——— 実体験と調査によるシンポジウム ———

明大昭和会建設不動産部会・出版印刷部会・時宝部会合同勉強会

兵庫南部地震（阪神大震災）が起きてから3ヶ月たった4月19日（水）当部会主催、出版印刷部会・時宝部会共催によるシンポジウムが（株）久保工務店（神戸須田町）大会議室をお借りして開催されました。

当時は、3ヶ月たったとはいうものの、鉄道はまだ全面復旧されておらず、多数の方々仮住まいをされており、破壊されたマンションの権利問題、被災地の区画整理についての官民の見解の違い等も報道され、この震災が想像を絶する大きな問題をかかえている事が強く認識されてくる状況でした。

一方即日現地調査に入った建築学会や、新日本建築家協会（JIA）の報告会が開かれて入場出来ない人が出るなど建築界の関心は強く、改めて耐震問題等がクローズアップされると同時に、現在建っている建物、住宅等の診断など、新しい課題も浮かび上がってきて、建設不動産にかかわっている私達にとってはきちんと現状を把握しておく必要性を感じておりました。

今回のシンポジウムはそういう状況を受けて企画を進め、中川副部会長の人脈により、明大の誇る素晴らしい講師陣の賛同を得ることが出来た上に、当部会員の清野氏が、大阪からかけつけて、参加して下さいなど、画期的な勉強会となりました。

シンポジウムは、兼松企画部長の趣意説明の後、中川コーディネーターの軽妙な司会によって始められ、まず、日本設計の大武氏が母校で教えているシャープになった明大生気質を話された後、OHPを使って、学会、JIAの資料を基にした今回の地震の概要について説明され、続いてナカノコーポレーションの西川氏が被害地の倒壊した建物の映像をスライドで映し出すと、場内からは溜息とざわめきがおこりました。

次に、鹿島技研の柿崎氏がOHPにより、日本の構造設計基準の変遷を説明され、さらに最新の免震工法を実例を交えて詳細に紹介されました。建築基準法を制定した時、関東大震災のデータを基にしたが、震源地は小田原近くであるのに東京の被害データによったようであり、当時の状況ではやむを得なかったといえ問題があったかもしれない、と構造研究者としての見解を述べられたのが印象的でした。

清野氏はシンポジウムのために休暇をとって来京され、大京のマンションのデータを公開されました。「本当にびっくりした。ドーンという音がして、一瞬何だかわからなかった。やっと会社に行くと、机や事務機器が散乱しており、状況が全くわからず、神戸のマンションのお客様から電話がきたら、どう対処したらよいか心配したが、1本もかからなくて、正直行ってホットした。電話が不通でそれどころではなかったんですね」と、生々しい体験をユーモアも交えて話された。現在大手業者が集まってボランティアでマンション相談室を開設しているが、小規模マンションのオーナーが相談に来て、どう対処してよいか判らない状況とのことである。

“諸先輩が地震については詳細な発表をされたので……”と言ってスタートした明大助教授菊池氏の話しは、災害を全く別の視点からとらえたもので、その朴訥でユーモラスな語り口に会場は大いに湧いた。理科年表を学者の眼で整理し直したデータは、この震災がある意味では人災であることを示唆すると同時にステーキをレアで食べて胃を壊して死亡する人の数値と天災で亡くなる方の数値と酷似している事に驚かせられると共に天災とは何かという事を考えさせられました。

会場は70数名で満席、2次会で、出版印刷部会の網倉部会長が専門外のことなのに面白く興味深く最後まで聞き入ったのははじめてだと挨拶され、さらに、“明大にもこんな素晴らしい部会があるとは思わなかった。今後もしどしどしい企画をたてて下さい。出来るだけ応援しますよ！”というパネラー柿崎氏の言葉が印象的だった、シンポジウムでした。



パネラー

大武 道伯氏(昭36工)

日本設計(株) 取締役技術センター長

母校で18年間指導を継続。

柿崎 正義氏(昭36工)

鹿島(株)技術研究所部長

工学博士 日本建築学会賞受賞 母校で構造に関する講義を担当。

菊池 雅史氏(昭42工)

明治大学理工学部

建築学科助教授 工学博士



清野 吉六氏(昭34商)

(株)大京 大阪支店

事業部次長兼サービス課長

報告

西川 操氏(昭44工)

(株)ナカノコーポレーション

工務部副部長

コーディネーター

中川 俊夫氏(昭34工)

(株)ナカノコーポレーション

取締役営業部長

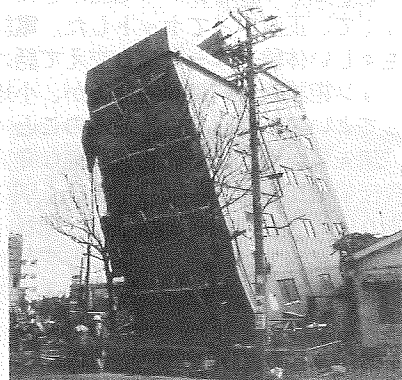
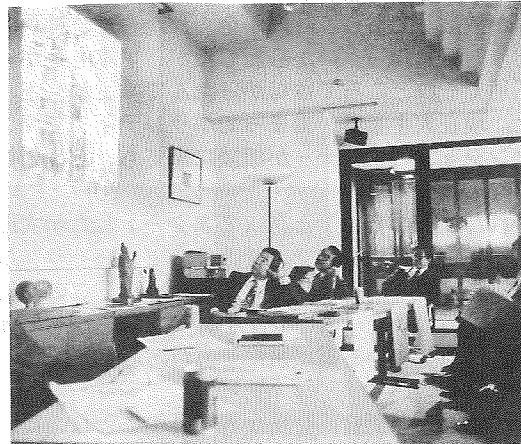
建設不動産部会 副部会長

司会

兼松 紘一郎氏(昭37工)

(株)兼松設計 代表取締役

建設不動産部会 企画部長



## 記念講演

## 『阪神大震災に思う』 - 法律面から考える阪神大震災 -

明治大学法学部教授 玉田 弘毅 氏

現在、区分所有やその他法律的な関係で、建設省・厚生省・公団等々の委員をしています。阪神大震災については、先日当部会において、技術的な点についてシンポジウムを行ったそうですが、今回は法律的に考えるとどういう事かという点について、少し述べてみます。

「まさかの時の友は真の友」と言いますが、法律というものの役割はそういうものじゃないかと思うのですが、それが今回はいざと言う時に役に立っていない。都市住宅学会のある京大教授は「分譲マンションに未来はない。」と述べたそうです。

私は区分所有研究会の代表もしていますが、今回の件に関し、提言の形で、住宅新報に2回掲載される予定です。又、有斐閣の「書齋の窓」にも6月号より第1回目の連載を始めますが、マンションの建替えについての私なりの考え方を述べておりますので、機会があれば御覧下さい。日経アーキテクチャーにも載るかも知れません

さて、日本のマンションは昭和30年頃に出現しました。最初は、一般大衆には購入できない高値の花のようなものでした。これが、昭和37年マンション法ができ、公庫の融資が付いたことにより、以後マンションの大衆化が進みました。当時からマンションは、「地震の多い日本に馴染まない」という一部の意見はありました。もともと物理的に一つであるものを、観念的に分けるという区分所有に無理がある、不自然であるということです。

建替え一つにしても、大規模修繕か小規模修繕か、費用の問題で理屈どうりにはいきません。非常事態なので平時の法律はあてはまらないのです。当事者同志だと、金銭的・個人的理由でまとまりません。例え、専門家の意見を持ちあっても、裁判になると何年もかかってしまいます。

そこで私は、権威あるオーソライズされた公的機関で決めるようにすれば良いと思うのです。この決定には、不服申し立てできないという前提で。金銭的問題については、公的機関か大手デベロッパー等で買取り、その後を推進していく機関とするのです。

長谷工のCRIという雑誌にも、「今回の問題を早期に解決しないと、マンションの信頼を回復できない」と述べています。

そもそも世界的には、1945年第二次世界大戦以降、復員者のためにマンション(コンドミニアム)が普及しました。もとは、フランスの法律が基になったスペインの法律に統治されていたプエルトリコから区分所有の概念が始まりました。欧米ではそれ以前にも似たようなものはありましたが、それはコーポラティブハウジング方式というもので、株主としての権利を行使する一種の賃借権であり、担保の実行に使えませんでした。そこで、中産階級を育てるためにも、コンドミニアム方式という担保の付く所有権にする必要があったのです。

都市住宅学会ではこれを踏まえ、現在の区分所有に対し、いろいろな提言をしています。その①には、躯体部分をスケルトンで信用あるデベロッパーが所有権を留保し、ユーザーが内装等を所有権を持つユニットにする形式です。いわば、ソーシャルビル形式といえます。又、管理所有という概念でいえば、共有部分を一括して所有することも可能ですが、欠点は登記ができません。その②は、イギリスなんかでもある形式ですが、月賦方式にし、お金を払った比率に対し所有権を移していくか、車のローンのように、所有権は全額払い終わってから移る方式にするというものです。

その他いろいろ考えられますが、マンションの将来についても、「糞(あつもの)に懲りて膾(なます)を吹く。」必要もないわけで、新しいバリエーションをもって対応していけば良いのではないかと思うのです。

以上

〔注〕記者の覚え書きなので、玉田教授の本意と相違する点があるかも知れません。ご容赦願います。(広報部 村上記)

平成7年新年賀詞交歓会

田町「牡丹」にて

平成7年1月20日(金)田町「牡丹」にて、恒例の新年賀詞交歓会が行われました。今回は三遊亭円楽師匠のお弟子さん、とん楽師匠をお招きし、飲んで食べて大いに笑って、最後は恒例のオークションも行われました。奥様ご同伴の方を含め、参加者50名でした。

この席で、1月17日午前5時46分、M7.2直下型の兵庫県南部地震が起こって直ぐであったため、中川副部長より、阪神大震災の義援金の提案があり、満場一致で可決されました。その場で集めた五万円は、1月23日、日本赤十字社へ寄付いたしました。

ご協力下さいました方々有り難うございました。

郵便振替払込金受領証

日	0	1	7	0	日	6
日	右の欄に正しく記入ください					
送り	/ 0 2 0					
宛先	日本赤十字社					
金額	5 0 0 0 0					
振替	明和会「建設・不動産部会」					
住所	〒151 渋谷区代々木2-10-11					
支店	不動産部 03(370)8451					
印	交付印欄					
金	交付印欄					
特	交付印欄					
取	交付印欄					
扱	交付印欄					

切り返しをしないで郵便局に持参してください。

明和会「建設・不動産部会」  
〒151 渋谷区代々木2-10-11  
不動産部 03(370)8451

交付印欄

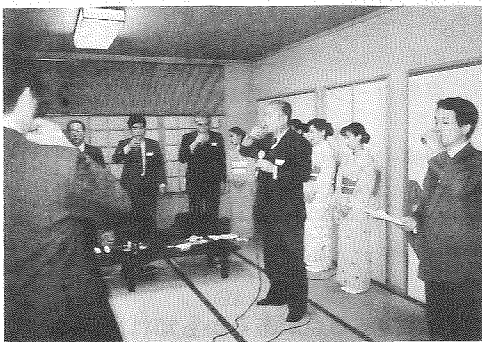
7.1.23  
01526



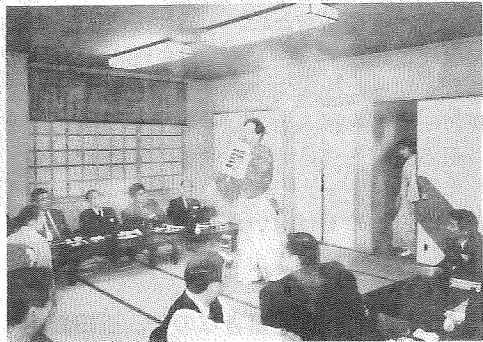
趣旨説明中の中川副部長



恒例のオークション



乾杯



熱演中のとん楽さん





8月15日

(株)兼松設計

兼松 紘一郎(昭37工)

今日は8月15日、終戦記念日である。気がつくと、新宿中央公園のミンミン蟬の音がひときわたかい。私は木陰にたたずんで、“人”のことを考えている。人間の不思議さに思いをはせている。

父は終戦の2ヶ月前、フィリピンのマニラから2時間程山中に入ったモンタルバンという所で戦死した。12年前マニラで仕事をしていた従兄が、母と私を現地に連れていってくれた。そこで涙していた母は81歳になったが、戦争の事を語ろうとしない。

今年は戦後50年、私も父より20年も永く生きてしまった。昨年親戚の人達に集ってもらい、馬琴師匠に一席講じていただいて50回忌をやったことを思い出す。父の法要ができるようになるのに50年もかかった。

父を戦争で亡くしながら、私も戦争から逃げたいという気持ちが強かった。国の仕組みと、だらしのない政治家の有様を見ていると、益々その思いはつのる。絶望したくないと思っているからなのだろうか？ 今日、村山首相は、国策を誤って……と、特にアジアの国々に謝罪の意を表したが、私には、私達も又被害者なのだという意識が強い。あやまればいいというものではないだろうと思うのである。

ところが、7月末、青年座の“あの戦争”という朗読劇を観、続いて8月の始め、沖縄の戦争をテーマとした芝居“ヤンマー達の夏”を観た。これが私を戦争と面と向かわなくてはいけないという気持ちにさせたようである。

“あの戦争”を書いて演出したのは、明大のOB、私にとっては後輩になる高木達さんである。高木さんとの出会いが50年たって戦争を考えさせることになったとも言える。

馬琴師匠と親しくなると共に講談家の写真を撮ることになり、師匠の会で先輩の岩山さんという映像プロデューサーを紹介された。昨年の暮のことである。

岩山さんは今10月に芸術祭参加として公演する宝井琴調さんと、日本有数の音響映像作家による幕末の土佐の絵師“絵金”をとりあげた新作講談に取り組んでいる。

私に何と写真家としてスタッフに加われという。この作演出が高木達さんだったのだ。

JIAの保存問題委員会の委員長 夏目さんの奥様から電話をもらった。神戸から帰ったばかりとのこと、彼女は障害者や子供達の施設に建築家としてかかわっており(残念ながら御夫妻共日大OB)6ヶ月半たった今、神戸の小学生達(彼女は子供達と言ったっけ)の事が気になり、矢も盾もたまず後のことは旦那にまかせて行って来たという。

まだ仮住まいをされている方は大勢おり、倒れかかった建物に住んでいる人もいて、夏の暑さに大変苦労しているとのこと。仮設の建物の断熱が不十分であり、冷蔵庫もままならぬ事は容易に想像がつく。救われたのは、子供達が元気だったこと、今後も定期的に行ってできる事はやりたいという彼女の行動力と想いに心を動かされた。

夏目夫妻との出会いにも思いをはせる。私の卒業した高校の、近代建築史の上でも貴重だった校舎が壊されることになり、保存運動の記事がJIAの機関誌に載った。驚いて手紙を書いたら夏目氏から何度も電話をもらい、私も母校に対する熱烈な想いを書くことになって、保存問題委員にも就任することになった。たった1年間のことである。会ったこともないのに、初めて電話をもらった時は旧知の間の様な気がしたものである。

記念館が解体される。岡野学長が何と言おうと、これは人災ではないだろうか。暑い夏。戦争と、もしかしたら、人災かもしれない神戸の震災、人との出会い、そして、日本の文化遺産“絵金”のことを考えるのである。

## 第2回釣り会

建設不動産部会釣り同好会

沼田 傑(昭46・経営)

平成7年6月3日(土)快晴。集合場所は鎌倉駅改札口、午前8時、3人ずつタクシーに分乗して目指すは小坪漁港。

本日の参加者6名、合田、弦本、曾我、秋元、石井、沼田。

港に着くと本日の仕立船与助丸は今や遅しと船頭さんが船の上でスタンバイ。乗り込んで驚いた。6人分のサオとリールが釣座に用意されていたのだ。

ところがである。そのサオとリールたるや10年前の初心者用のような「キーコ、キーコ」と鳴るリールと安売り用のソリッドグラスなのだ。(事前に頼んでいた貸竿は1本だけだった。)

この老船頭は実は小坪漁業組合員43人中たった2人のキスはえなわ漁師で1人で沖に出て75本のハリに手早くエサを付けながらセットする作業を普段しているせいか、マメなのだ。

せっかくの親切を無にしては、と我々全員「弘法……」を決め早速釣り始める。

第一投目から、すぐにアタリ、船中キス、メゴチのパレードが始まった。

ところで「メゴチ」という魚はキス釣の外道として、必ず釣れる嫌われモノだ。体中ヌルヌルがひどく、ヘタにつかむとヒレに刺されて痛い目に会う。

一方キスは引き味も良く、姿カタチは「海の女王」と形容されるほどキレイな魚である。

ところがところが食べるとこのメゴチほどおいしい魚も珍しい。淡白な白身で刺身よし、天プラよしののだ。キスは足元にも及ばないのだ。さて朝から退屈しない程度に全員コンスタントに釣りその間、曾我さんが60㌢のアナゴを釣ったり、ホウボウが上がったり、とにかく天気も良く、午後2時納竿時には船のイケスは一杯。港に戻り、全員魚をクーラーに入れ、港前の食堂で生ビールで乾杯。

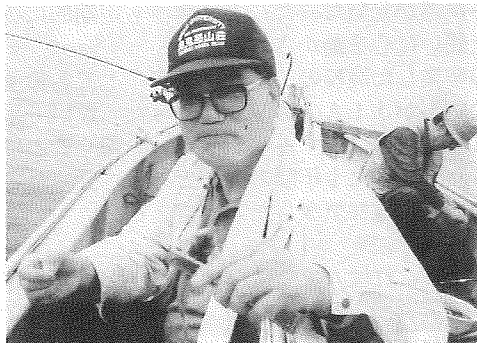
次回の打合せなどして夕刻を迎え、海の風を体中に受け、本日は全員、良い釣りをした1日でした。



参加者一同



釣れた!

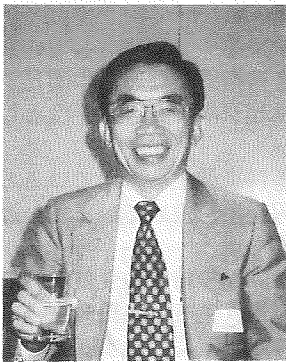


会員プロフィール

『更にビジネスに結びつく活動を期待します。』という部会員の皆様の声が寄せられています。広報部としましてはこの希望に答えるべく、本コーナーを充実させていく方針です。

毎回、その方の御職業、仕事上で必要としている情報、紹介してもらいたい業種・企業等を具体的に紹介していただきます。これにより諸所の会合で出会った時に共通の話題が広がりますし、お仕事の一助にさせていただきたいと考えております次第です。

このページのみを保管してゆき、会員名簿と併せてご利用くだされば幸いです。



きむら いちろう

木村 一良氏

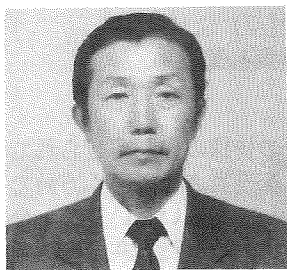
川崎市残土運搬協会 取締役総務部長

昭和31年法学部卒 松岡熊三郎ゼミで商法を専攻。

神奈川県立川崎工業高校電気科卒。

川崎市中原区下小田中4丁目に在住。(南武線武蔵中原駅の南西方)

- ◆**お仕事** 会社は川崎市川崎区旭町で川崎大師のそばにあります。当社の業務内容は、主として大手建設会社との協力会社として建設残土の運搬及び処分を請け負っています。昭和60年6月に設立し、会員及び準会員を含めて約30社、傘下のダンプトラック(全て営業車のみ)は約160台です。これまでの10年間に搬出した土量は約317万立方です。会社の従業員数は10名、昨年の売上高は約10億円でした。
- ◆**業界** 国及び自治体の財政逼迫からの公共投資の減少、先送り、更に民間の設備投資の減少などにより受注量の減少、運賃水準の低下を招いている。更にNOX対策や高速道の大幅値上げ等問題も山積しており、より一段と厳しい状況にあります。
- ◆**当部会へのPR** 当社の社長も私も同じ31年度、政経学部卒で会社の雰囲気も大変良く毎日ワイワイとやっています。また当社は運送だけでなく建設、不動産に関する情報交換も多いので、相互に活用していただければ幸いです。
- ◆**明大時代** 在学中、神宮球場へよく応援に行き、秋山・土井のバッテリーが何度も優勝したことが、一番印象に残っています。
- ◆**家族** 私と妻と子供3人の家族です。長男(32歳)、次男(30歳)、長女(24歳)とおり全員社会人です。特に長女は三井不動産に勤務。業界の仲間として親子の会話を楽しんでいます。
- ◆**趣味** 映画(平均月2~3本)音楽鑑賞(月にライブ1度)と楽しんでいます。



ど きん ま さ は る  
**土金 雅晴**

土金商事(株) 代表取締役

昭和41年商学部卒 茨城県立土浦第一高等学校卒

葛飾区堀切6丁目在住。(京成本線堀切菖蒲園駅と千代田線綾瀬駅の中間)

◆**お仕事** 会社は葛飾区堀切6丁目(京成本線堀切菖蒲園駅の北方)にあります。当社の業務内容は、リゾート開発(北軽井沢)、宅地開発(茨城県美浦村)です。

これとは別に、中国華南にショッピングセンターを開発中、中山市に土木事業を展開中、武漢市にコンクリートプラント事業。中国より食料品の輸入も行っています。

◆**業界** 現在、(社)全日本不動産協会東京都本部の理事・城東第一支部長をしています。中小不動産業界の苦境を打破すべく新しい不動産の確立を目指すかわら中国ビジネスに新天地を求め異業種の経営者のグループと語りニュービジネスのガイド役としてコンサルタント業を目指しています。

◆**当部会へのPR** 中国に向けて不動産業、開発業、建売事業等将来進出を考えている方投資案件に興味をお持ちの方、土木、運送業の関連の方、情報交換を求めています。近い将来日本は中国ビジネスを抜きに事業展開を考えられない筈です。

◆**明大時代** 4年間ノンポリで余り売りの多い時代ではなかった。高校時代の受験勉強の疲れをいやす4年間であった。卒業後は気合が入って、それ以来人生を一生懸命生きてきたが、現在発展途上国の様な状態でまだまだこれからといつも思っています。

◆**家族** 雅晴53歳、妻礼子51歳、長男誠治25歳、長女園佳21歳、既に2人の子供の教育を終え、私と妻の2人の人生が始まりました。この日のために夫婦共通の趣味がたくさんあり面白い人生が約束されています。夫婦仲がよいです。

◆**趣味** 趣味としては、ランニング(長距離走)、登山、スキー、空手、ゴルフ、カラオケ、旅行(趣味多数)。

## 明大昭和会第24回総会

平成7年10月28日(土)午後5時より、明治大学会館8階において明大昭和会総会が開催されます。当日は、奥様同伴、お子様連れの方々のご来場をお待ちしております。

すでに明治大学広報8月1日号で、「特集 駿河台再開発A地区の基本設計決まる」として紹介されているので承知のことと思いますが、ニコライ堂と共に駿河台の風景をつくってきた記念館が11月の駿台祭並びに「記念館さよならDAY」が終了後、解体されることは、私達OBとして淋しい感じがしないでもありません。

記念館が解体される前の最後の機会に、昭和会総会に参加をお待ちしております。

[事務局] ☎151 東京都渋谷区代々木2-10-10

(株)ラッキーコーポレーション 事務局長 秋元 道別(41・法)

☎03(3370)8458 FAX 03(3320)1354

編集 榎本 行男(45・政経)

顧問 鈴木 康弘(39・商)

広報部 内海 佳人(63・経営)

土金 雅晴(41・商) 村上 仁志(55・法)